

2. 台湾情報産業の概要

	1995年	1998年	2000年	2001年				
国内生産高	14,071 (世界3位)	19,240 (世界3位)	23,081 (世界4位)	20,124 (世界4位)				
国内生産シェア	72.0%	57.0%	49.1%	47.1%				
海外生産高	5,472	14,536	18,558	22,562				
海外生産シェア	28.0%	43.0%	50.9%	52.9%				
中国生産シェア	14.0%	29.0%	31.3%	36.9%				
国内 + 海外生産	19,543	33,776	47,019	42,686				
成長率	34.0%	11.9%	17.9%	-9.2%				
主要製品	2000年		2001年		2002年予測			
	生産高 Mドル	生産量:千台/千枚	生産高 Mドル	生産量:千台/千枚	生産高 Mドル	生産量:千台/千枚		
Notebook PC	13,550	12,707	12,239	14,161	12,935	17,008		
伸び率	23.8%	30.9%	-9.7%	11.4%	5.7%	20.1%		
Desktop PC	7,797	27,660	6,866	25,405	7,326	27,540		
伸び率	8.1%	44.7%	-11.9%	-8.2%	6.7%	8.4%		
Motherboard	5,673	84,367	5,647	80,565	5,844	85,294		
伸び率	16.9	31.1%	-0.5%	-4.5%	3.5%	5.9%		
CRT/Monitor	8,317	59,292	5,240	46,171	4,652	44,516		
伸び率	-	-	-37.2%	-22.1%	-11.2%	-3.6%		
LCD/Monitor	1,885	292	3,131	9,007	5,323	16,967		
伸び率	-	-	66.0%	208.3%	70.0%	88.4%		
CD/DVD/RW	2,304	59,456	2,106	51,998	2,409	49,739		
伸び率	32.4%	-	-8.6%	-12.5%	14.4%	-4.3%		
DSC	569	5,634	1,132	8,821	1,643	12,079		
伸び率	312.3%	-	95.5%	53.8%	45.1%	36.9%		
Server	798	702	1,040	1,217	1,294	1,670		
伸び率	-	-	30.4%	73.4%	24.5%	37.2%		
海外生産シェア	1998年	1999年	2000年		2001年		2002年予測	
			中国シェア	中国シェア	中国シェア	中国シェア		
Notebook PC	0%	3.3%	6.7%	0%	11.5%	5.2%	40.0%	37.0%
Desktop PC	88.7%	86.0%	84.0%	45.0%	86.0%	48.0%	94.0%	52.0%
Motherboard	36.5%	40.5%	48.0%	45.0%	55.1%	52.8%	57.3%	54.8%
CRT/Monitor	71.4%	73.3%	92.0%	58.0%	97.9%	66.3%	98.0%	70.9%
LCD/Monitor	-	-	3.0%	1.0%	32.8%	28.4%	72.0%	69.4%
CD/DVD/RW	59.4%	80.5%	86.0%	78.0%	93.9%	91.2%	94.6%	91.8%
DSC	-	-	58.0%	44.0%	60.0%	54.0%	67.0%	63.0%
Server	-	-	45.0%	9.0%	49.0%	16.0%	54.0%	24.0%

説

明

1. 台湾の情報産業(ハードウェアを指す)は1980年代半ばに高度成長期に入り、「世界のパソコンの供給基地」と呼ばれ、米国、日本に次ぐ世界の3位の生産国となった。しかし、近年、製品価格低下の競争激化に直面して、世界中の企業が安価な労働力と巨大消費市場に着眼して中国進出を余儀なくされた。その結果、中国は「世界の工場」として、急速に発展してきた。かかる中、台湾の情報産業製品の生産拠点も中国への移行が加速した結果、2000年(前年比+10%の231億米ドル)に中国(同+38%の255億米ドル)に抜かれ世界の第4位に転落した。
2. 資策会(情報産業促進会、以下、MICと略称)の資料によると、2001年台湾の情報製品の総生産高(海外+国内生産)は42,686百万米ドル、前年比-9.2%に落ち込んだ。このうち、海外の生産高は22,562百万米ドル、全体生産におけるシェアは1995年の28%、1998年の43.0%、2001年の52.9%と上昇した。海外生産拠点を見ると、中国における生産シェアは、1995年に僅か14.0%であったが、2000年に3割を突破、2001年には36.9%までに拡大した。一方、Notebook PC及びLCD Monitorの中国移行の急拡大を主因に、2002年第1四半期には、中国における生産シェアが49.4%に達した。
3. 2001年の両岸情報製品の生産高を見れば、世界経済の低迷、IT産業の不況、米国同時多発テロ事件の影響にも拘わらず、世界第3位生産国の中国は前年比+10.3%増の28,174百万米ドルと好調な推移を見せた反面、台湾の生産高は21,124百万米ドル、前年比-12.8%と初めてのマイナス成長となった。
4. 主要製品では、最大であるNotebook PCの2001年生産量は前年比+11.4%の14,161千台に達したが、生産高は製品価格の急落を背景に同-9.7%の12,239百万米ドルとなり、うち、海外生産シェアは11.5%を占めた。2002年に入ってから、台湾企業の中国における生産拠点での量産開始に伴い、Notebook PCの海外生産シェアが40%まで上昇すると見られる。2001年Desktop PCの生産高(6,866百万米ドル、前年比-11.9%)、生産量(25,045千台、同-8.2%)は共に下落したが、景気回復や大手メーカーによる受注増加などにより、2002年はプラスに転じた。Monitorを見ると、消費者の液晶型パソコンへの転換趨勢などから、LCD Monitorは急ピッチで成長したが、CRT Monitorが後退局面を示している。一方、世界の9割を占めるMotherboardの生産高は5,647百万米ドル、前年比-0.5%と微減、うち、中国での生産が約5割を占める。DSC(Digital Still Camera)は近年、速いペースで発展ってきて、高度成長を遂げ、うち、海外生産の比率が5割強、2002年には6割強に上昇する。
5. 現在、台湾の情報産業の課題は、開発研究力のレベルアップ、高付加価値製品の開発、海外有力業者と戦略同盟の締結、LCDなどキーパーツの自製能力の向上、中国への移行や中国との競争激化など。

資料：資策会(情報産業促進会)